

2019. 7. 18

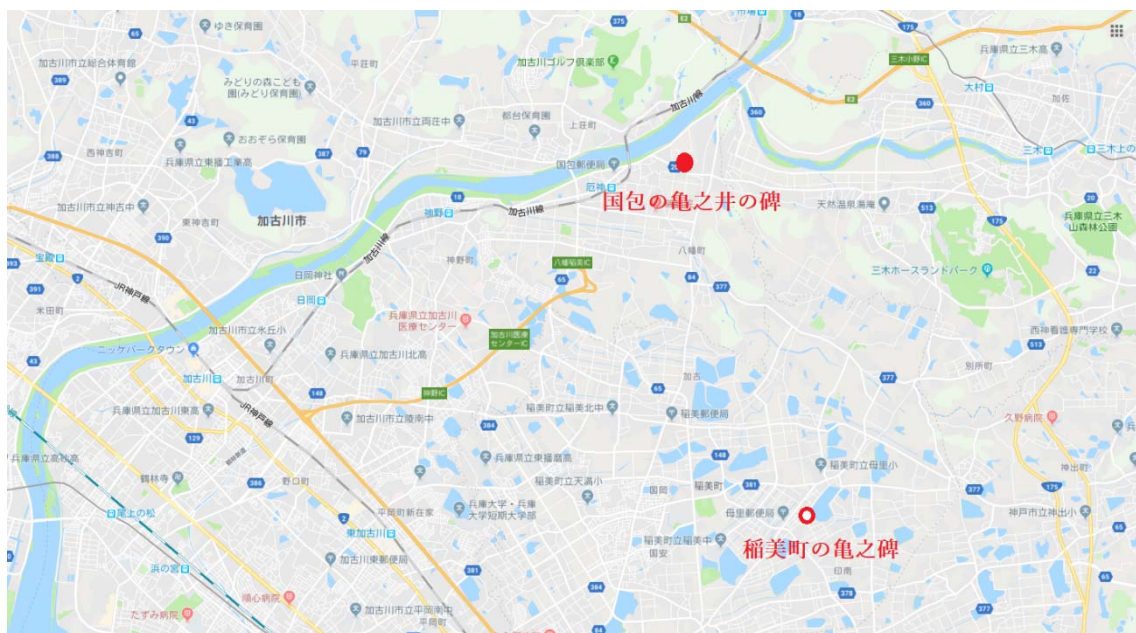
畑 啓之

「亀之碑」は水に深く関係する 稲美町の広谷池横に新たな「亀」を発見した

亀に耳があるのは不思議？ そう思っていたら案外そうでもないようだ。浦島太郎の亀にも耳が付いている。2019年5月25日のブログで示した国包の亀之井の碑が特別である、ということもなさそうだ。Webで探すと前回のブログの亀も含めて、そんなに多くはないが耳がある亀が見い出せる。

今回あらたに見つけた亀之碑は稲美町の広谷池横にあるものだ。母里小学校の近くである。広谷池の増築記念として明治33年に立てられた碑である。やはり水回りの安全を願ってのものか。

この碑文の読み下し文は、疏水博物館のWebにあった。国包の碑文もこのように読み下し、誰もが見られるようにすれば、先人の努力が広く認識され、より一層の感謝の心が湧いてくることと思た。



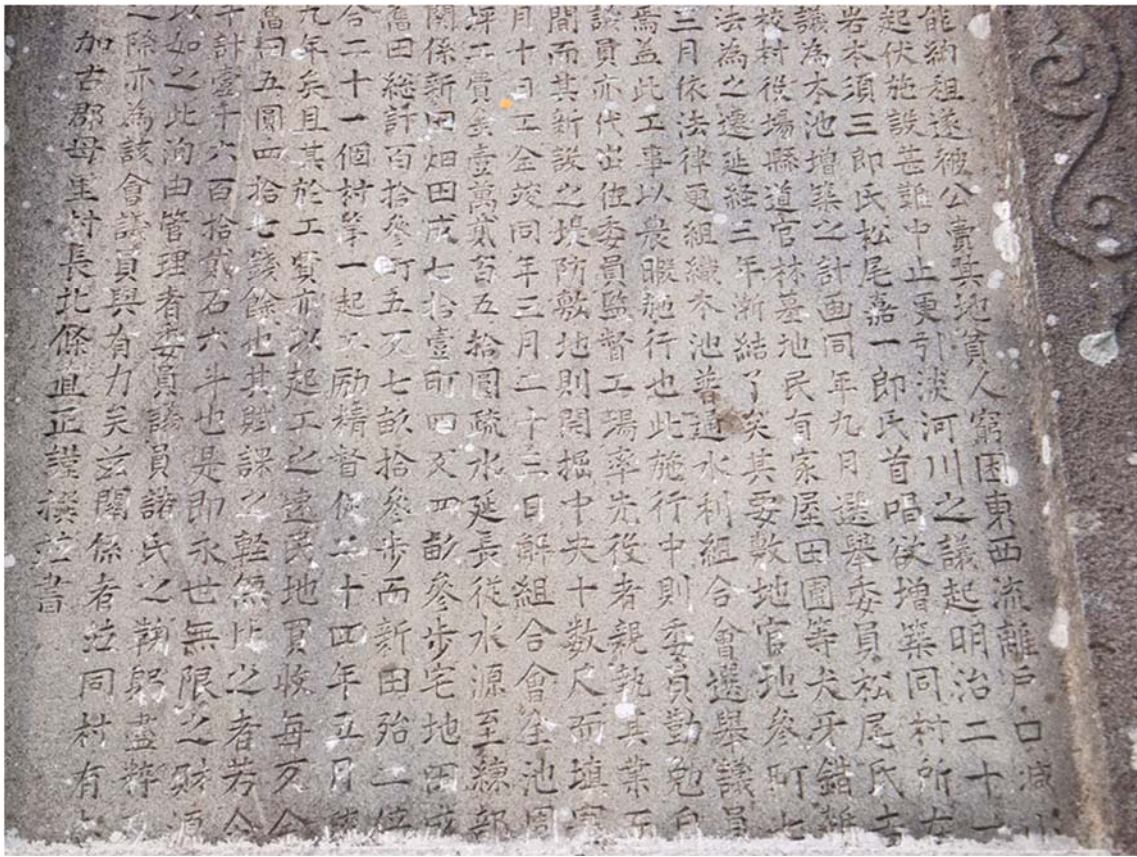




廣石池增築紀念碑

本縣廣石池水明治庚辰前後山旱極甚田園荒蕪
 存額殆極舉村疾苦百方企圖恢復頗探求水源設
 置一月組織本村字印南新村外二十個村普通水
 字廣石池而引其水利開墾其園圃以為稻田計之
 同若藏氏廣進其當時若本氏為本村戶長與委員
 廣多端調理難戶長委員悉心苦慮屢請願政
 及參酌七步地六町壹反九畝拾步元溜池五
 拾畝名村長若本氏為管理者助後伏川熊次郎氏
 率等執繩量大地測水松尾氏最克勵精其堤防之
 此工役者則舉村社下老小相共獎勵克服其後矣
 精坐極力樅舉層層堆積堅牢緻密無漏洩之虞
 圍膏十拾五間池內面積拾四町叁反九畝拾壹步
 屋配水間六里二十五町從配水開至本池貳拾叁町
 壹町六反四畝步山林源野田成貳反六畝步合計
 舊田矣蓋此增築之初水源淡河川疏通事業未成
 水之初通也竟注入本池組合村見之統々起工焉臨
 額平均拾餘官地亦得無料貸與之特與尚由管理
 此工事行于今日雖二倍工費不能行也試築本池
 也惟往時荒蕪之園圃變為沃田舊田亦為水利饒足
 與關係者茲舉村之協同戮力其功績真可謂偉大矣
 者相謀計舉本池造營之功績勳之于石因記其校築

此地租課儲蓄不耐負荷往々賣地價租又不能納租遂被公賣其地
 三之山河初雖有引山田川之企共通水線山脈起伏施設甚難中止
 大興水利而此舉業之作也本村字印南新村若本須三郎氏松尾
 保者異口同聲贊稱之因二十一年五月更會議為本池增築之計而
 為之設備焉然而其地則村社學校村役場縣道官林某
 地主指置公正尚告情不依遂至行土地收用法為之遷延經二年漸
 畝九步合計拾五町六反六畝六步二十四年三月依法律更組織本
 委員知元自此審議工費同年四月一日起工焉蓋此工事以農暇勉
 之配置淋澆之新設等凡工事細大無不與知該員亦代出位委員監
 係新築者參百四拾五間係修築者六百七拾間而其新設之堤防敷
 三置放水場一經營造宜規模整然三十年二月十日工全竣同年三
 間八合五勺容水積約七萬九千八百八拾五坪工費壹萬貳百五
 拾元大小八拾九畝此延長七十六拾間之池關係新田畑田成七拾
 又四畝步舊田四拾町貳反參畝拾步新舊田總計百拾叁町五
 畝陸拾陸畝池管理者委員排群疑慮先組合二十一一個村等一起
 以之為囑天也故端草新村依疏水得才說九年矣且其於工費亦
 為節約每反賦課額新田拾圓九拾五錢舊田五圓四拾七錢餘
 參町叁反餘之新田米額每反平均貳石貳斗計壹千六百拾餘
 以得反後極年之豐原耕新村之幸福何如之此洵由管理者
 氏松尾氏伏川氏於淡河川疏水事業創始之際亦為該會議員與
 明治三十三年五月十日 加古郡母里村長北



本亀之碑は明治33年に立てられたもので、疏水博物館のホームページにその全文が載っている。漢字にはルビが振ってあり、下の文章では漢字の後ろにそのルビが続いて示されている。

淡山疏水・東播用水博物館のホームページ

http://www.inamino-tameike-museum.com/pdf/08_10/010.pdf

広谷池増築記念碑 本村は高燥こうそうにして水乏し。明治めいじ 戊辰 ぼしん 前後、凶早きょうかん 頻しきりに臻いたり、園圃えんぼ 荒蕪こうぶす。加之しかのみならず 改正地租の賦課ふか 偏重へんちようにして負荷に耐へず。往々地を売り租を償ふ。又納租する能あはず、遂に其の地を公売せらる。貧人は窮困し東西に流離、戸口ここう 減少、衰頹すいたい 殆どほとんど 極れり。村を挙げて疾苦し、百方ひやくかた 恢復かいふくを企図す。頻りしきりに水源を探求し、十数里の山河を跋涉ばっしょうす。初め山田川を引くの企くわだて有りと雖いえども、其の通水線は山脈起伏し、施設甚はなはだ難く中止す。更あらためて淡河川を引くの議、起る。明治二十一年一月、本村 印南新村外二十個村普通水利組合會を組織し、大いに水利を興おこす。此の事業の

作 おこり なり。本村字蛸草新村岩本須三郎氏、松尾嘉一郎氏首唱す。同村所在字廣谷池を増築して其の水利を引き、其園圃を開墾し以 も っ て稲田 いなだ と為さんと欲 ほ っ す。之を関係者に謀 は か るに關係者異口同音に之を賛称 さんしょう す。因 よりて二十一年五月、更に會議し、本池増築の計画を為す。同年九月、委員を選擧し、松尾氏、吉岡岩藏氏當選す。其の當時岩本氏本村戸長 こちょう を為す。委員 と相共に担当して之の設備を為す。然 し かり而 しこう して其の將 ま さ に増築を為さんとするの地は、則すなわ ち村社 そんしゃ、学校、村役場、県道、官林、墓地、民有家屋、田圃 でんぼ 等、犬牙錯雜 けんがさくごつ、障碍多端 しょうがいたたん にして調理頗 すこぶる難 かたし。戸長 こちょう、委員、焦心苦慮 しょうしんくりよ し、屢 しばしば、政庁に請願し、又地主と協商す。措置公正なるも尚 な お 苦情休 やま ず。遂に土地収用法を行うに至る。之が為に遷延 せんえん 三年を経て漸 ようやく 結了 けつりょう す。其の要敷地は、官地三町七反三畝七歩、民地六町一反九畝二拾歩、元溜池 もとためいけ 五町七反三畝九歩、合計十五町六反六畝 六歩なり。二十四年三月、法律に依 より、更に本池普通水利組合会を組織し、議員十二名を選擧す。村長岩本氏管理者と 為り、助役伏川熊次郎氏之を補佐す。而して委員、元の如く此より工費を審議す。同年四月一日、起工す。蓋 け だし此の工 事は農暇 のうか を以って施行するなり。此の施行中は、則すなわ ち委員勤勉たり。自ら率 そつ して手に縄墨 じょうぼく を執 とり、地を丈 は かり水を測る。松尾氏最も克 よく 励精 れいせい す。其の堤防の經營、閘門 こうもん の配置、溝澮 こうかい の新設等、凡 およ そ工事の細大与 あずかり知らざるは無し。議員も亦 また 代るがわる出でて委員を佐 た す け、工場を監督し、役者 えきしゃ して率先して親しく其の業 わ ぎ を執る。而 しこう して此の工役 こうえき する者は則すなわ ち拳 村壮丁 そうてい 老小相共に競ひ励み克 よく 其の役に服せり。其の堤防の新築に係るは三百四十五間、修築に係る六百七十間。而 しこう して其の新設の堤防敷地、則すなわ ち中央十数尺を開掘 かいくつ して粘土で填塞 てんそく し、極力槌 つ ち で撃ち、層々 そうそう 堆積 たいせき す。堅牢緻密毫 ご う も漏洩 ろうえい の虞 おそれ 無し。配水閘 はいすいこう 三を設け、放水場一を置く。經營適宜にして規模整然たり。三十年二月十日、工全く竣 おわ る。同年三月二十 三日、組合会を解く。全池の周囲一千十五間。池内 ちない 面積十四町三反九畝十一歩。深さ平均一間八合五勺。容水積約七万 九千八百八拾五坪。工費金一万二百五十円。疏水延長水源より練部屋 ねりべや 配水閘 はいすいこう に至る六里二十五町。配水閘 はいすいこう より本池に至 る二十三町。新設の溝澮 こうかい は大小八十九線。此の延長七千六十間。本池の關係する新田は、畑、田と成るは七十一町四反 四畝三歩、宅地 たくち、田と成るは一町六反四畝歩、山林源野、田と成るは二反六畝歩、合計七十三町三反四畝三歩。旧田四 十町二反三畝十歩、新旧田總計百十三町五反七畝十三歩なり。而 しこう して新田殆 ほとんど 旧田に二倍す。蓋 け だし此の増築の初めに当り、水源淡河川疏通事業未だ工、成らず。故に皆遲疑 ちぎ 躊躇 ちゅうちよ す。唯 た だ 本池管理者、委員群疑 ぐんぎ を排し、組合二十一個村に率先 して第一に工を起し、励精 れ

いせい 督工 とっこう す。二十四年五月疏水の初めて通ずるや先 ま ず本池に注入す。組合村之を見て続々工を起 す。疏水の注入之を以 も っ て嚙矢 こうし と為す。故に蛸草新村、疏水に依 より禾 か を得て既に九年なり。且 か つ其の工費に於いても亦 また 起工の速きを以 も っ て民地買収反毎 たんごと 金額平均十円余り、官地も亦 また 無料貸与の特典を得たり。尚 な お 管理者、委員の務めて節約を為 すに由 より、反毎 たんごと の賦課金額、新田十円九十五銭、旧田五円四十七銭余りなり。其の賦課の軽きこと之に比 ひ する者無し。若 も し此の工事をして今日に行はしめば、工費を二倍すと雖 いえども行うこと能 あた はざるなり。試みに本池関係七十三町三反余りの 新田を概算すれば、米額反毎 たんごと 平均二石二斗、計一千六百十二石六斗なり。是 これ 即 すなわち永世無限 えいせいむげん の財源なり。惟 お も ふに往時 おうじ 荒蕪 こうぶ の園圃変じて沃田 よくでん と為る。旧田も亦 また 水利饒足 じょうそく の為に収穫倍多 ばいたし以 も っ て積年の衰頹 すいたい を恢復 かいふく するを得たり。蛸草新村の幸福何 を以て之に如 し かん。此 これ 洵 まことに管理者、委員、議員諸氏の鞠躬尽瘁 きつきゅうじんすい 及び関係者並びに村を挙げての協同戮力りくりよく とに由 よる。其の功績真に偉大なりと謂 い ふべきかな。蓋 け だし岩本氏、松尾氏、伏川氏は淡河川疏水事業創始の際に於いても亦 また 該会議員と為 り与 あずかりて力有り。茲 こ こに関係者並びに同村有志の者相謀 あいはかり、本池造営の成績を挙げて之を石に勒 ろ くすることを請 こ ふ。因 よりて 其の梗概 こうがい を記し之を贈る。明治三十三年五月十日 加古郡母里村長 北條直正謹 つつし みて撰 せん し並びに書す。

「耳のある亀」を調べてみると次のようなものがあった。

隅田川神社（水神社）の亀

<http://www9.plala.or.jp/sinsi/07sinsi/fukuda/kame/kame-2.html>

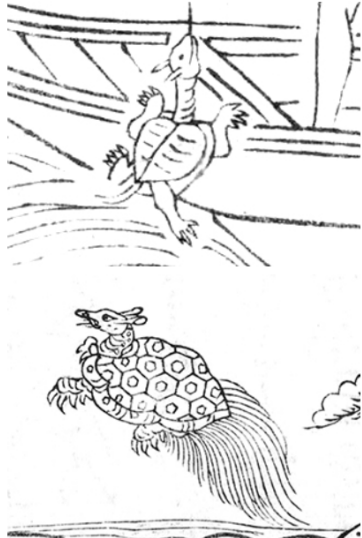


拝殿前参道に、耳のある亀像の一对が置かれている。

ドラゴントータル 浦島太郎の亀

<http://kihiminhamame.hatenablog.com/entry/2018/06/06/210000>

さて、前回まで読んでいた『浦島太郎』の挿絵に描かれていた亀、何で耳があるのかしらん？という疑問。



国立国会図書館デジタルコレクション-御伽草子 第21冊 (浦島太郎)

8484yogiさんのブログ 瀬織津姫 & クンダリーニ…No.52

<https://ameblo.jp/8484yogi/entry-11847162789.html>

